

長い夏休みを終え、学校には子どもたちの元気な笑顔と明るい声が戻り、新たな気持ちで学校生活がスタートしました。

全校朝会

9/1

○校長先生の話

今日から再び学校生活が始まります。こうしてみなさんが元気に学校へ戻ってきてくれたことを、とてもうれしく思います。

校長先生は、この学校生活の始まりに、みなさんへ一つの言葉を贈ります。それは、「昨日の自分を少しだけ超える」という言葉です。運動が得意な人もいれば、勉強が得意な人もいます。友達とすぐに仲よくになれる人もいれば、絵を描くことや工作が得意な人もいます。人と比べる必要はありません。比べる相手は、昨日までの自分です。

- ・昨日より一文字でいねいに書く。
- ・昨日より一回多く手を挙げる。
- ・昨日より早くあいさつをする。
- ・昨日より少しだけ優しい言葉を使う。

その小さな「できた」が積み重なると、一か月後、二か月後には、自分でも驚くほど大きく成長しています。

これから、たくさんの行事があります。友達と力を合わせる場面、自分の力を発揮する場面、思うようにいかず悩む場面もあるでしょう。でも、その一つ一つが、みなさんを大きく成長させてくれます。うまくいかなかったときには、「失敗した」と思うのではなく、「次はどうすればもっとよくなるかな」と考えてみてください。その考え方ができる人は、必ず成長します。一人一人がもっている可能性という芽を大切に育て、自分らしく輝くようにしてほしいと思います。先生たちは、みなさんが安心して挑戦し、「できた」「わかった」「楽しかった」と感じられる毎日になるよう、力を合わせて支えていきます。みなさん一人一人にとって、実り多く、笑顔あふれる学校生活になることを楽しみにしています。



避難訓練

9/4

○教頭先生の話

地震や火事は、「今から起きますよ」と教えてくれません。授業中かもしれません。休み時間かもしれません。先生が近くにいないときかもしれません。

だから、みなさんには、自分の命を守るために覚えておいてほしい言葉があります。それが、「お・は・し・も・ち」です。「お」——おさない。友達を押すと、転んでけがをしてしまいます。「は」——はしらない。あわてて走ると、自分も友達も転んでしまうかもしれません。「し」——しゃべらない。大切な放送や先生の指示を聞くためです。そして、今日、特に覚えてほしいのが、次の二つです。「も」——もどらない。一度、安全な場所へ逃げたら、絶対に戻らない。「忘れ物をした」「大切な物を置いてきた」「ちょっとだけ取りに行きたい」そう思っても、戻ってはいけません。7月28日に熊本県で大きな地震がありました。そのとき、イオンモール熊本でも、たくさんの人が建物の外へ避難しました。ところが、避難したあと、建物の中へ戻った人たちがいました。その後、建物の中で大きな爆発が起き、戻った人の中から、亡くなった方が出ました。一度は安全な場所まで避難できていたのです。それでも、建物に戻ったことで、大切な命が失われてしまいました。だから、みなさん。命より大切な忘れ物はありません。ランドセルも、タブレットも、ゲームも、お金も、大切な物かもしれません。でも、命は一つしかありません。だから、「も」——もどらない。これを絶対に忘れないでください。そして最後は、「ち」——ちかづかない。地震のあとには、倒れそうな建物、ブロック塀、割れたガラス、切れた電線など、危険なものがあるかもしれません。火事の場合にも近づいてはいけません。「どうなっているんだろう」「見に行ってみよう」そんな気持ちになっても、危ない場所には、ちかづかない。

避難訓練は、先生にほめてもらうための練習ではありません。自分の命を守るための練習です。本当に地震が起きたとき、先生がいつもそばにいないとは限りません。そんなときにも、「今、どうすれば自分の命を守れるかな」と、自分で考えて行動できる人になってほしいと思います。